

被災地の今

Now in the Divastated Area

-赤浜 WS & 福島視察-

-Workshop of Akahama & Visiting Fukushima-

大槌プロジェクトでは赤浜地区で広場のワークショップを行い、大槌町のデザイン会議にも参加してきました。また、M1 瀬川と国際都市計画・地域計画研究室 M1 北島が参加している、「2013 復興デザインスタジオ」での福島視察が行われました。

赤浜広場 WS & 大槌町デザイン会議

text_douki

12月1日(日)に赤浜の公民館で「赤浜広場ワークショップ」、12月19日(木)には町役場で「第5回大槌町デザイン会議及び地区別ワーキンググループ会議」が開催され、大槌PJメンバーが参加してきました。

赤浜広場ワークショップでは、それまで行われてきたデザイン会議とはまた違う参加者(中学生など、若い方々が参加しました)と共に、赤浜地区の広場や水場などについてデザイン会議での成果を踏まえながら、意見の言いやすい自由な雰囲気でも議論されました。ここでは子供の遊び場の確保や浜との関わり方など、若い人ならではの視点から意見が出てきて非常に実りのあるワークショップとなりました。

また、大槌町デザイン会議では地区別ワーキンググループ会議が行われ、その後、地区別の成果が発表されました。この日一番参加者の多かった赤浜地区のディスカッションでは、被災時の記憶の具体的な継承方法や復興事業全体の中でのデザイン会議の意義や開催時期に関する意見など、活発にディスカッションが行われました。地区別の成果発表では赤浜地区以外での意見や考えを聞くことができ、大槌PJで主に関わっている赤浜地区や吉里吉里地区にも参考にしていけるような貴重な機会となりました。



▲デザイン会議での赤浜地区のディスカッション



▲赤浜地区での広場予定地付近から



▲赤浜広場ワークショップ

福島視察 2013 復興デザインスタジオ

国際都市計画・地域計画研究室 M1 北島 遼太郎



▲双葉町役場職員の方々による説明会

12月16日(月)、社会基盤学専攻と建築学専攻と合同で行われている窪田先生などによる「2013 復興デザインスタジオ」の一環で、福島県いわき市及び広野町、楡葉町を視察しました。

浜通り地域は現在、東京電力福島第一原発事故による放射能汚染により、従来の居住地への帰還が困難な方々が大量おり、本演習ではこの地域や人々の将来像を提案することを目指しています。



▲いわきニュータウン内の木造仮設住宅

いわき市では双葉町役場を訪問し、職員の方々から町民の避難状況をご説明いただいたほか、広域合併や町外拠点、中間貯蔵施設等に関する我々の質問に丁寧にお答えいただき、提案へ向けて大切な知見を得ることができました。また、いわきニュータウン内の仮設住宅や広野、楡葉両町の帰還指示解除準備区域を見学し、津波被害を含め、この地域が置かれている現状を肌で感じることができました。

"Road to Doctor"

An Essay by Doctoral Student Vol.6!

「ワルシャワ歴史地区の復原とその継承に関する研究」

D3 鈴木 亮平

修士論文「ワルシャワ歴史地区の復原とその継承に関する研究」では、ワルシャワ歴史地区の戦後の復原の過程、その後の国際的な議論を追い、ワルシャワ歴史地区の復原が、どのようにその文化財としての価値を認められていったかをまとめました。それを踏まえて博士論文では、ワルシャワ歴史地区において現在進められている新たな復原プロジェクトをめぐる議論に焦点を当て、中心部での開発により大きな変化を遂げている現在のワルシャワにおける、ワルシャワ歴史地区の文化財としての価値や役割を深く考察したいと考えています。ワルシャワという都市は、その時代その時代で、都市の歴史・記憶のあり方が議論され、解釈されてきたように思います。戦後の復原から現在、そして未来に渡る時間軸の中で、そのあり方を整理することで、“都市における歴史や記憶の生き方”を自分なりに考えていきたいです。

今回の記事、“Road to Doctor”ということですが、博士課程の期間は、論文を書くと同時に、自分が都市空間にどう関わるかを定める、大事なチャレンジの期間だと思っています。研究とは別にNPOを立ち上げ、実務をしています。そこでも自分なりの“Road”を築ければと思います。

人数の多い都市デザイン研究室。よりお互いの研究について知る機会を作ろう！ということで、博士課程のメンバーの研究内容に迫るコーナーです。第6回目はD3の鈴木さんです。



▲歴史を伝える様々な取り組み



▲歴史地区の中心、旧市街広場

プロジェクト報告



清水PJ 盛りだくさんの3日間！

3 Days Filled with Events in Shimizu!

12月6日(金)、7日(土)、8日(日)で黒瀬助教、出口研特任研究員遠藤、M1道喜、望月で清水を訪問しました。今回は、遊歩道の今後についての市民とのワークショップ、来年2月23日(日)に予定しているまちあるきイベントのミーティングや4大学合同の公開講座、東大チームによる「清水みなと散歩ミニ」の開催、西村幸夫教授の富士山世界文化遺産登録を記念しての講演会への参加とオーシャンプリンセス号に乗っての洋上観察と盛りだくさんの3日間でした。

新領域創成科学研究科社会文化環境学環境倫理学研究室 M1 望月 美希

まちあるきイベントのミーティングでは、6つの市民団体と4大学の先生・学生、また静岡市観光プロモーション課の方も交えて、普段の活動紹介や清水の魅力あるスポットの紹介や提案などワークショップを行いました。これまでの活動の話題では、たき火カフェや冷凍倉庫見学など魅力的な活動を行っている団体もありました。このような場から生まれる新たなネットワークによって各団体の活動がさらに盛り上がっていただければと思います。



▲なかなか乗ることができないオーシャンプリンセス号にて



▲清水みなと散歩ミニ



▲遊歩道ワークショップ



▲4大学合同公開講座



▲まちあるきイベントの会議風景

12月・1月の予定 Information

12月26日	まち大研究室会議
1月16日	第12回研究室会議
1月21日	第13回研究室会議
1月22日	清水PJ現地訪問

✧ 編集後記

道喜 開視

先日、学部4年時に部活でお世話になったコーチが今年で辞めるということで送別会に行ってきました。やはり別れというのは寂しいもので、参加した全員が泣いていました、というようなことは全くなく、思い出話をして当時の思いをぶっちゃけるなど、この機会を生かして存分に同窓会とお酒を楽しんできました。